

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒 207-0015
東京都東大和市中央 1-539-15
<http://tohoku-saiko.jp/>
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

東北再興

Re-Create , TOHOKU!

2 0 2 6 年（ 令 和 8 年 ） 6 月 16 日 火 曜 日

無料

第169号

毎月発行

発行 2026 年（令和 8 年）6 月 16 日 火曜日

【当新聞発行責任者
兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ。72 歳の新人映像作家兼プロデューサー兼作家。趣味は古代史・縄文文化研究。現在、埋もれた歴史を掘り起こす歴史書籍価値の執筆開始。また、企業価値の増大と IPO サポートを専門とする会社を今年 4 月に創業。電子新聞『東北再興』の発行責任者兼編集者兼記者でもある。



クマが住宅街や繁華街に頻繁に出没 今年の東北の犠牲者もすでに4人 事態は深刻、対策の選択肢も限定か？

クマ出没件数が今年
は異常に増加

今年に入ってからクマの出没件数が全国的に異常な増加率である。メディアには毎日のようにクマ出没ニュースがあふれている。昨年までは、クマの出現増加は東北だけの現象のような印象があったが、すでに東北やどこか一部の地域だけに偏った現象ではなくなってきた。
ありとあらゆる場所に出現していて、「クマの世界」



福島クマ被害、猛スピードで工場侵入
執拗に追走背後襲う（6/3）・
・福島民友新聞より

に何か異常なことが起きたのかと思わせてしまうほどである。
そして、今年に入ってから、あろうことか東京都にまで出没している。
このように、クマ問題は、東北だけの問題とは言えない状況を迎えたことはまぎれもない事実である。
市街地への頻繁な出現

さらに今年の特徴としては、「市街地」に頻繁に出没していることがある。
昨年までのように、「市街地」と山間部の中間地帯ではなく、民家や工場が密集し、たくさん人間が居住する地域に出没しているのである。実に驚くべきことである。
ここまでくると、クマの生息域に何らかの理由で大変化が起き、さらには、クマの食べ物にも大変化が起きたと推定しても的外れとは言えないだろう。

福島市街地ではクマに
四人が次々に襲われた
今年二日にはもつと驚くべき事態が発生した。
これまで目撃情報が少ない、たぐさんの人間が居住する地域に出没しているの
である。実に驚くべきことである。
現場周辺では警察や市職員が屋内退避を呼びかけるなど、一時騒然となった模様である。
「こんな場所にクマが出るなんて」。工場の従業員や近隣住民は驚きと恐怖に包まれたようだ。

クマに追い回され襲
われる生々しい動画
さらには、福島製鋼という会社の敷地内の防犯カメラに、正門付近で二十代男性従業員がクマに襲われる様子が写っていて、広く配信された。
夜勤を終えた男性が帰宅しようと正門付近を歩いていたところ、クマが猛スピードで同社敷地内に侵入。逃げる男性を十秒ほど執拗に追いかけて回した後、背後から飛びかかり、引き倒したのだ。

筆者もその動画を見たが、あまりにもしつこく追い回していたので、何が目的だったのか不思議に思える映像だった。
クマが突然の人間の出現に驚いたというのではなく、少し離れたところから見つけた人間に襲いかかろうとして追い回し、最後には押し倒したのだ。
幸いにも、近くを通りかかった軽自動車の運転手が車でクマを追いかつたので、命にかかわる事態には至らなかったが、襲われた本人は一体何が起きたのかと想ったことであろう。

山菜採り時の被害と
民家出没は別問題

今年に入ってから東北のツキノワグマによる犠牲者は、別表のように、すでに

四人である。
これらはみな、山菜取りでの被害であり、住宅街ではない。前記の福島市のケースとはまったく別物と考えるべきであろう。
山菜取り時の被害に対しては、地元ハンターらによる緊急銃猟で対応するしかないが、住宅街や繁華街では緊急銃猟はかなりハードルが高いと素人でも分かる。
では、クマが縦横無尽に住宅街や繁華街を走り廻り、見かけた人間を襲うがままにしておけばいいのかといえば、それは許されないことだろう。
また、厄介なことに、どこに出没するかも予想もつかないのが最近の状況である。
皆さんの箱わなを仕掛けるしかないか？
残る方法は、いたるところに箱わなを設置するしかないのではないか？
専門家によれば、五月から八月にかけては、クマのエサが極端に減少する期間だという。
すでに人家のニワトリが多数襲われた事例も出現している。もう見境がなくなっているのではないか？
飢餓状態に陥ったたくさんのクマがエサを求めて住宅街や繁華街をうろつき、じやまもの人間を排除しようとしてくる状況は想像するだけで身震いする。良い方法が見つかるまで、あてずっぽうでも、あちこちに箱わなを仕掛ける以外にないのではないか？
いままでもクマが出たこともない場所でもそうした対策をするしかなさそうだ。

山菜採りに出かけクマに襲われたと みられる死亡事案 （東北地方、4月以降）

5月5日 酒田市 山林に78歳男性の遺体	5月7日 八幡平市 山林に69歳女性の遺体
5月20日 西和賀町 山林に85歳男性の遺体	4月21日 紫波町 山林に55歳女性の遺体 捜索中の警察官もけが

※日付は発見された日。
年齢は当時

山菜採りでクマ被害続発、4月以降、
東北で4人犠牲・・・日経新聞より

【東北被災地の中小企業生き残りと活性化】 シリーズ④

東北水産業生き残り策として大震災の津波被災地に 「超コンパクト六次産業都市」を設立するのはどうか？

韓国「十五分都市」構想

消滅危機に直面した韓国・釜山が「十五分都市」として街を再設計しているというニュースを目にした。釜山はかつて三百八十万人を誇った韓国第二の都市だが、現在は三百三十万人に減り、韓国政府から「消滅の危険」がある地域に指定された。そこで打ち出したのが、生活に必要な機能を徒歩十五分以内に集約する「十五分都市」構想だ。

閉鎖した保育園を高齢者向けの弁当配送拠点にしたり、廃校を金融教育の場に転換するなど、あるものを活かしながら街をコンパクトに再設計していく構想だ。人口増を前提にしない都市計画であるが、すでに動き始めているという。

郊外に広くインフラを維持するコストは、人口が減れば減るほど重くなる。道路・水道・公共交通・病院、これらを広いエリアで維持し続けることが、いずれ難しくなる地域が出てくる。「コンパクトシティ」という言葉が聞かれるようになって久しいが、それが現実の問題として住居選びにも影響してくる時代が来たのではないかと不安や広さより、駅・病院・スーパーなど生活インフラが将来も維持される立地かどうか。こ

れが住居選びの大切な軸になっていくのではないかと旧東ドイツの小都市が「健全な縮小」を前向きに捉えて再生したように、日本も「減ることを前提にした選択と集中」に、そろそろ本腰を入れる時期なのかもしれないとも言われる。

これは韓国の大都市の話ではあるが、ひょっとしたら、人口が減り続ける東日本大震災被災地に考え方を応用できるのではないかと、すでに存在する大型都市をもっとコンパクトにするというものが今回の記事である。

というものではなく、元々人口が少ない被災地域に、超コンパクトな新しいミニ都市を建設出来たら、被災地が抱えるあらゆる課題が解決できるのではないかと、思いついたのだ。

まず、人口減少問題がある。若い人がどんどん流出し、高齢者だけの集落になりつつある問題もある。魅力的な仕事がないという課題もある。第一、若い女性がかつての集落に流出して、「消滅の危険」が目前に迫っているという問題もある。大都市だけが膨らみ、地方が減少し、ましてや被災地などにも人が住まないという問題もある。

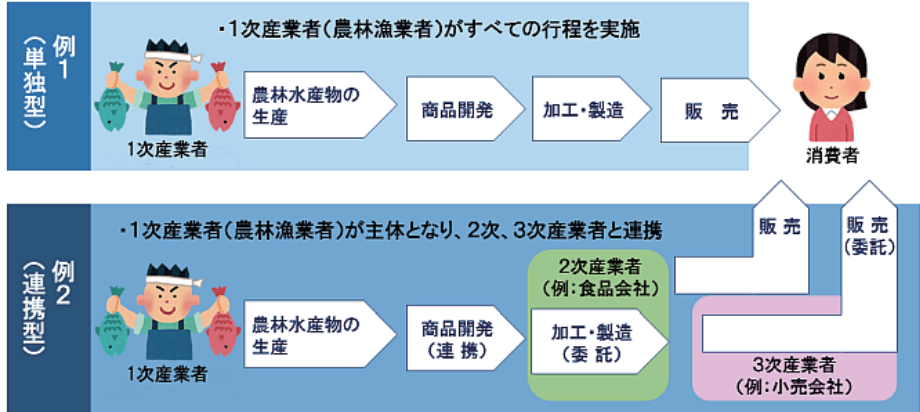
それらを一挙に解決する手法として、超コンパクトシティ構想は使えるのではないかと。水産業の「超コンパクト六次産業都市」の建設。当新聞は、東北水産業生き残り策として、「陸上養殖」を取り上げてきた。まず、これを、超コンパクトシティの基本的な土台にする。次に、魚の養殖だけでなく、「商品開発」して、「加工・製造」して、さらには、「販売」もする六次産業化という挑戦的な構想である。さらに、そこに実際に暮らすための最小限のミニインフラとしての道路・水

道・公共交通・病院・保育園、コンビニも備えた新しいまちをつくるのである。そして、このまちを取り囲むエリアに住居も建設するのである。規模は、「十五分都市」よりはるかに小さい「五分都市」でも、「八分都市」でもいい。生活できる最低限のインフラがあればいいというまちの構想である。従来の巨大復興インフラに代わり、水産業の「超コンパクト六次産業都市」の建設は被災地復興の起爆剤にはならないだろうか？



東日本大震災による主な津波被災地の地図・・国土地理院より

【6次産業化の例】



水産業の6次産業化イメージ・・石巻市6次産業化・地産地消推進センターより



陸上養殖イメージ図

東北 TOPICS

当新聞が独自に選んでコメントするスモールニュースコーナー

【開催概要】

日 程：2026 年 8 月 29 日（土）
時 間：18:30 ～ 21:30（最終入館 20:30）
受付開始：17:50
対 象：20 才以上 飲んで酒蔵を応援できる方
※アルコールの試飲がありますので、お子さまおよび 20 才未満の方のご入館はできません。

料 金：
①【升盛りお刺身付き入館券】 5,500 円（税込）
＜入館券＋升盛りお刺身 1 点＋オリジナルグラス 1 個＋試飲チケット 3 枚＞
※販売場所：公式 HP のみ（8 月 28 日（金）23:59 まで）
②【前売り入館券】 4,200 円（税込）
＜入館券＋オリジナルグラス 1 個＋試飲チケット 3 枚＞
※販売場所：公式 HP、コンビニ（8 月 28 日（金）23:59 まで）
③【当日券】 4,500 円（税込）
＜入館券＋オリジナルグラス 1 個＋試飲チケット 3 枚＞
※販売場所：公式 HP のみ（8 月 29 日（土）12:00 開始）
※前売り券の販売状況で販売しない場合もございます。



升盛りお刺身（オリジナル付き）
※イメージ

●試飲追加チケット（当日会場で販売）
11 枚セット：2,000 円（税込）
1 枚：200 円（税込）

販売場所：
○仙台うみの杜水族館の公式 HP（<http://www.uminomori.jp>）
→①、②、③の販売
○コンビニ
・セブンイレブン[セブンコード：115-830]・ローソン/ミニストップ[Loppi/しコード：21895]
→②のみの販売

アクセス：
・JR 仙石線中野駅下車 徒歩 15 分
・JR 仙石線中野駅より無料シャトルバス運行
17:45～21:45の間、約 15 分間隔で運行
※アルコールを飲まれる方、お車でのご来館はご遠慮ください。

協 賛：株式会社 J-オイルミルズ

水族館で宮城地酒飲み放題 仙台うみの杜水族館の企画 昔の三陸会が思い出される

地元・宮城の銘酒を夏の夜の水族館で飲み放題

「仙台うみの杜水族館」が、今年八月二十九日（土）「水族館の閉館後、復興支援企画として「魚を肴に日本酒ナイト水族館企画」を開催するということで、ここでお知らせしたい。

「水族館」と「日本酒」という組合せは、なかなか結びつかないものだが、とても面白い発想である。

閉館後の水族館で、昼間とは異なる夜ならではの生きものの姿を、ゆっくりと観察することができ、泳ぎ回る魚たちや夜行性の生きものたちを眺めながら、宮城各地の酒蔵を巡るような「宮城の銘酒プチ旅行」を

一か所で楽しめる企画とのこととても興味深い。
今回で十四回目を迎えるイベント

このイベントは、東日本大震災の復興支援企画として、今から九年前の二〇一七年に誕生し、今回で十四回目を迎えるという企画であり、仙台うみの杜水族館を代表するプレミアムナイトイベントである。前回開催時にはチケットが完売するなど、毎回多くのファンが押し寄せているという。

「東北地酒党」を自認する筆者も時間が合えばぜひおじゃましたいものだ。

宮城を代表する九つの酒蔵集結

当日は地元・宮城を代表する以下に列記した九つの酒蔵が集結する。いずれも全国的に有名な酒造である。塩竈の「佐浦」と「塩竈阿部勘酒造」、石巻の「平孝酒造」、気仙沼の「男山本店」と「角星」、閑上の「佐々木酒造店」、特別出店として蔵王の「蔵王酒造」、大崎市の「一ノ蔵」と今回日本酒ナイト水族館では初出店の「宮寒梅」が集まり、各蔵自慢の銘酒、限定酒、秘蔵酒、秘蔵酒を振る舞う計画だ。

また、日本酒ファンなら垂涎の銘柄も提供される。一例を挙げれば、「蒼天伝」、「日高見」、「男山」、「浦霞」。

参加要領参照

参加要領は左記記載の通りで、二十才以上限定の、大人に向けた・大人だけの・大人が楽しめる特別なナイトイベントであるので、ご留意のこと。

とにかく、夏の夜、涼しい水族館で過ごす贅沢な時間の中、海の生きものたちに癒されながら、宮城の風土と文化が育てた地酒を味わうなど至福ともいえる体験が待っていることだろう。

地酒ファンにはたまらない企画紹介

筆者も、一般人が東京に居ながらにして、三陸の海鮮と東北の地酒をいただきつつ、東日本大震災の復興支援にわずかながらでも貢献しようという「三陸会」を長年に亘り主催していた。開催要領を読んでいったら、その「三陸会」をなつかしく思い出した。

大上段に構えず、もともと肩の力を抜いた支援の方法があることをもともとと広げていって欲しいと願う。

宮城を代表する 9つの酒蔵が集結

塩竈の「佐浦」と「塩竈阿部勘酒造」、石巻の「平孝酒造」、気仙沼の「男山本店」と「角星」、閑上の「佐々木酒造店」、特別出店として蔵王の「蔵王酒造」、大崎市の「一ノ蔵」と今回日本酒ナイト水族館では初出店の「宮寒梅」が集まり、各蔵自慢の銘酒、限定酒、秘蔵酒を振る舞います。



2026 年（令和 8 年）6 月 16 日（火曜日）				第 169 号	http://tohoku-saiko.jp/
古代東北に轟いた「独立宣言」―元慶の乱のこと					
繰り返された征夷		古代東北に住んでいた朝廷に服従しない「まつろわぬ民」のことを、朝廷側は蝦夷（えみし）と呼んでいた。朝廷は自らの支配領域を広げようと繰り返し「征夷」を行った。			
繰り返された征夷		繰り返された征夷によって朝廷の支配領域は北東へと拡大していった。その中で最も長く激しい戦いとなつたのが、桓武天皇によるいわゆる「三十八年戦争」である。			
繰り返された征夷		七十四年（宝亀五年）に蝦夷が現在の宮城県北部にあつた桃生城を焼き討ちしたことによつて始まつたこの戦いの後半では、現在の岩手県内陸中部を本拠としていた阿弓流為（あきなが）と母礼（もれ）に率いられた蝦夷軍は朝廷軍を散々に打ち破り、これに対して朝廷は坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命した。長年に亘る戦い			
繰り返された征夷		で疲弊した阿弓流為と母礼は八〇二年（延暦一〇年）に田村麻呂の元に投降、二人を伴つて帰京した田村麻呂は二人の助命を願ひ出るが、朝廷はこれを許さず、結局阿弓流為と母礼は処刑されてしまふ。			
繰り返された征夷		三十八年戦争がよく知られているのは、特に蝦夷軍の阿弓流為と母礼、朝廷軍の坂上田村麻呂と、敵味方にそれぞれ名を挙げた著名な人物がいるという理由が大きい。今回紹介したい元慶（がんぎょう）の乱が三十八年戦争に比べて東北の人にもあまり知られていないのは、阿弓流為や母礼のような蝦夷軍のリーダーの名前が知られていないことも関係しているように思える。それと、三十八年戦争と違つて一年で終結したこともあるかもしれない。しかし、この元慶の乱は、東北全体の歴史の中でも大きなインパクトがあつた出来事である。何と言っても、現在の秋田県内を舞台に朝廷に反旗を翻した蝦夷は、何と「独立宣言」をしているのである。			
繰り返された征夷		元慶の乱とは			
繰り返された征夷		三十八年戦争が終結した八一年（弘仁二年）から六〇年以上後の八七八年（元慶二年）三月、現在の秋田県と山形県のエリアにほぼ重なる出羽国で、秋田県側にいた蝦夷が反乱を起こした。蝦夷軍は出羽国の軍事・行政の中心だつた秋田城やその出先機関、周辺の家々を焼き討ちし、反乱の狼煙を上げたのである。			
繰り返された征夷		反乱を起こした理由は何か。秋田城司の庄政である。八六九年（貞観二年）に東日本大震災と同じ規模の地震と言われる貞観地震が起きた。その二年後には秋田と山形の県境にある東北第二の高峰島海山が噴火した。乱の前年の八七七年（元慶元年）は大干ばつに襲われたにも関わらず、当時の秋田城司は全てのものに重税を課し、私的に定めた税も上乘せし、朝廷の使者の者たちまで馬や鷹などを安く買い漁るなどしたために、領民は困窮の極みにあつたといふのである。			
繰り返された征夷		こうした事態に対してついに蝦夷が立ち上がったのである。反乱を起こしたのは現在の秋田県内の一二の村の蝦夷だつた。一二の村の中には上津野（＝鹿角）、火内（＝比内）、野代（＝能代）、腋本（＝脇本）、方上（＝潟上）など表記は異なるものの、現在の秋田県内の地名も散見される。			
繰り返された征夷		蝦夷軍は、四月上旬に能代で出羽国府の六〇〇名の軍を打ち破つた。慌てた朝廷は四月下旬、現在の群馬や栃木の国司に二〇〇〇名ずつの兵の派遣を命じた。続く五月上旬、当時の摂政、右大臣藤原基経は、藤原保則を出羽権守に任じて乱の平定を託した。保則は、備中・備後（現在の岡山県西部・広島県東部）の国司だつた頃に善政を敷いて領民から「父母」と慕われたという人物である。任が解けて帰京する際には領民が大挙して押し寄せて道を塞いだためになかなか帰れなかつたというエピソードまで残っている。それだけでなく、当時は検非違使として都の治安維持の責任者もしていた。朝廷はその手腕に出羽国の反乱鎮圧を期待したのである。			
繰り返された征夷		蝦夷による「独立宣言」			
繰り返された征夷		そのような中、衝動的な知らせが朝廷内を駆け巡つた。出羽国で反乱を起こした蝦夷が、「秋田河以北を己が地に為さん」と言つたといふのである。「秋田河」は、今秋田県の内陸南部を流れ、秋田城の近くで日本海に注ぐ雄物川のことである。その雄物川以北は蝦夷の地とする、と宣言したのである。蝦夷による事実上の「独立宣言」である。			
繰り返された征夷		もとより、朝廷としては			
繰り返された征夷		そのような事態を認めることはできない。五月下旬、東北の太平洋側の陸奥国からの援軍二五〇〇名と出羽国の二五〇〇名、合わせて五〇〇〇名の兵を秋田城に集結させて反乱の鎮圧に乗り出した。しかし、蝦夷軍の勢いは止められず、押し寄せた二〇〇〇名の蝦夷軍に陸奥・出羽連合軍は大敗してしまふ。しかも、米や兵糧馬などことごとくを奪われてしまつたのである。			
繰り返された征夷		まさに出羽国に下向しようとしていた保則は、こうした情勢を見て、「蝦夷反乱の原因は秋田城司の苛政にある。今は蝦夷が一致団結して決起していて、この状態ではかつての坂上田村麻呂であつても平定することは難しいだろう。従つて、義をもつて徳化し、朝廷の威信を示せば、野心は和らぎ、武力なくして収束できるに違いない」と述べたとされている。武力に依らない鎮圧を志したわけである。			
繰り返された征夷		保則による乱の鎮圧			
繰り返された征夷		六月中旬、その保則が出羽国に到着して、現地で詳細な状況を把握した。それに先立つて六月初旬には小野春風が鎮守將軍に任ぜられた。小野春風は、保則に「驍勇人（非常に勇ましく強い人）に越えたり」と言わしめたほどの人物であるが、一方で古今和歌集」に歌が載っている文化人でもあつた。また、若い時期を東北で過ごして、蝦夷の言葉			
繰り返された征夷		にも堪能だつたそうである。春風は、保則の方針に沿つて、鎧を脱ぎ捨てて二人で蝦夷軍の元に行き、ひたすら蝦夷たちの「教諭」に努めたといふことである。それも秋田城の近くからではなく、秋田城から見ても奥地にある上津野（＝鹿角）から始めたといふことで、大胆な人物であつたことが窺える。			
繰り返された征夷		こうした保則と春風の姿勢は、蝦夷たちにも好意を持つて受け止められたようである。前の秋田城司の有り様とは天と地ほどの差があつたであろう。春風の態度に感激した蝦夷が朝廷軍に酒食を供したというエピソードがある。			
繰り返された征夷		出羽国側に帰属する蝦夷が相次ぐようになり、七月中旬と八月中旬には、出羽国側についた蝦夷軍が反乱を起こした蝦夷軍を大敗させる事態が起きている。これは朝廷による伝統的な「夷をもつて夷を制す」戦略の一環ではあるが、それが可能になつたのも保則と春風の宥和政策だつたわけである。			
繰り返された征夷		八月下旬には蝦夷軍三〇〇名が秋田城に来て降伏、九月下旬には春風が上津野（＝鹿角）の蝦夷軍のリーダー七名を引き連れて秋田城に到着したとの記録もある。二月上旬には、渡島（現在の北海道渡島半島）の蝦夷三〇〇〇名余と津軽の蝦夷二〇〇〇名が降伏を求めた。保則はこれを認め、その労をねぎらつたといふ。			
繰り返された征夷		これで一件落着かと思いきや、朝廷はあくまで武力を以ての征討を望んでいたのか、翌八七九年（元慶二年）の一月に、新たに蝦夷軍の征討を保則に命じている。これに対して保則はその撤回を強く要請した。結局三月上旬保則の上奏が認められ、征討命令は撤回され、事実上元慶の乱は終結したのである。			
繰り返された征夷		元慶の乱が残したもの			
繰り返された征夷		以上が元慶の乱のあらましである。藤原保則と小野春風という二人が、蝦夷を武力で鎮圧するのではなく、前の秋田城司のように収奪に走るのでもなく、和解に至つた詳細については伝わっていないが、恐らくは蝦夷が受け入れられる条件を提示して、先の「独立宣言」を取り下げさせて、出羽国の一員として残つてもらう方策を講じたことで、乱が無事終			
繰り返された征夷		結したのである。			
繰り返された征夷		こうしてちょうど一年で元慶の乱は終結したが、この乱が東北の歴史に残した意味合いは大きい。何と言つても、事実上の「独立宣言」の存在である。しかも、その内容もよく考えてみれば控え目である。元々あつた東北の地全部を蝦夷の土地となす、というのではなく、雄物川から北のみを蝦夷の土地となすという主張である。雄物川から南は、従来通り朝廷の土地でいい、ただしそこから北は自分たち蝦夷の土地とする、そういう一方的ではない主張である。			
繰り返された征夷		しかし、そう主張せざるを得ないやむにやまれない事情が、当時の蝦夷たちにはあつたわけである。自分たちの困窮に対して何ら手を打たない朝廷に対して、それならば自分たちの心は自分たちで決める、と高らかに宣言したのである。			
繰り返された征夷		東北の歴史の中で、このような「独立宣言」があつたと記録に残っているのは、この元慶の乱を指して他にはない。ずっと後の、幕末から明治時代始めに掛けて成立した奥羽越列藩同盟がもう少し長く持ち堪えられたならば、あるいは二度目の「独立宣言」が出た可能性はあつたかもしれないし、何なら当時東北にいた輪王寺宮北白川宮能久親王が東武皇帝として即位したというような話も一部伝えられてはいるが、少なくとも正史としての記録には残つてはいない。			
繰り返された征夷		元慶の乱が教えてくれること、それは自主独立の気構えである。現代に生きる我々も、二〇〇年以上昔にこの地にて、自分たちの暮らしを成り立たせるためにと立ち上がった人たちの心の内に思いを馳せたいものである。			

シリーズ・東北の人口減少対策 その③

急激な人口減少は東北に限った現象ではなくなった 人口増加策を考える前に東北の実情を数値で把握しよう

日本全体の人口が急激に減少中

総務省は五年毎に行う国勢調査の速報値を発表した。それによると、去年十月時点の日本の人口は一億二千三百五万人と五年前の調査から三百九万七千人減少した。減少幅は過去最大である。

都道府県別では、東京都と沖縄県を除く四十五道府県がすべて減少した。

東北に限った現象ではなく、国内のほぼすべての地域で人口が減少しているということなのである。

さらに細かく、市町村別でも、全国千七百十九市町村のうち、九割以上の自治体の人口が減少した。

こうした傾向は、今回の調査に限ったことではなく、これからもずっと続くことをデータは示唆している。

こうした実情を踏まえての東北の人口減少対策を検討するという以前に、落ちていて、まずは東北の人口減の実情を数値で明確に把握する必要があると思う。

東北各県人口減少は目を覆うばかりの数値

厚労省が発表した昨年の人口動態統計から、東北各県の個別状況を見てみよう。

出生数では、宮城が一万千七十九人（前年比百六十三人減）で過去最少を更新。秋田

は三千四百四十七人（同百三十五人減）と、鳥取、高知に次いで全国で三番目に少なかった。前年に五千人を割り込んだ山形は、四千三百八十八人（同三百十九人減）と四千人割れも視野に入る。福島は七千八百四十二人（同三百七十四人減）と八千人台を、青森は四千七百三十七人（同三百六十二人減）と五千人台を割り込んだ。

東北六県の出生数合計は、下のグラフの通りで、右肩下がりが続いている。また、東北六県の出生率地図を見ると、宮城が1.00で東北で最低値である。

出生数がゼロではないのだから悲観することはないと喜んではいけない。

さらに、出生数から死亡数を引いた自然増減があるが、それがまた悲惨である。福島が一万九千三百三十六人減と東北で最大。人口千人当たりの自然増減率は宮城がマイナス1.8と東北で最も小さかった一方、秋田はマイナス1.5と減少率が十四年連続で全国最大。

また、人口十万人当たりの自殺者数を示す自殺死亡率で、青森は2.0と全国で最も高かった。福島は1.9で群馬に次いで3番目、前年は全国で最も高かった岩手が1.96で4番目だった。

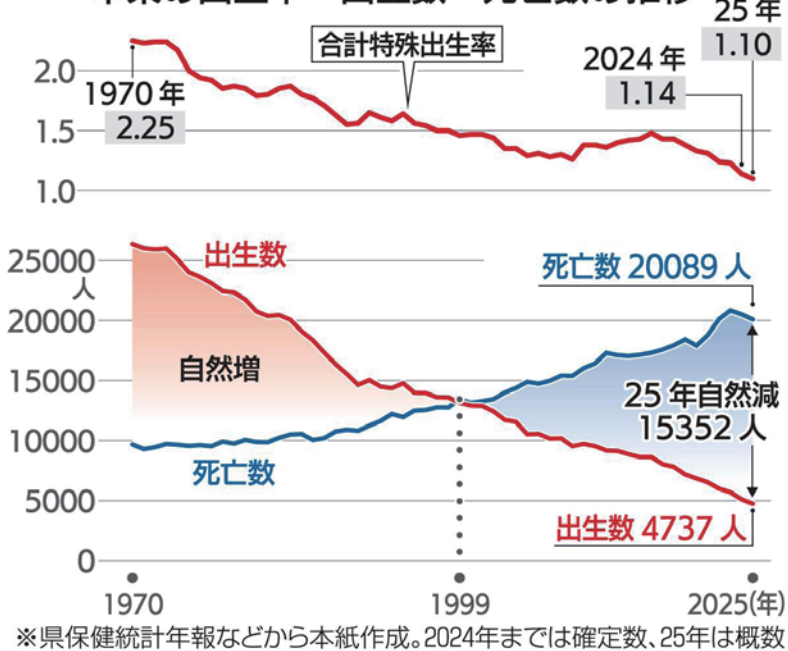
これらを総合すると、東北六県はいずれも長期右肩下がりの人口減が続くこと

出生数は減少率が高い



東北 6 県の出生数合計
・・日経新聞より

本県の出生率・出生数・死亡数の推移



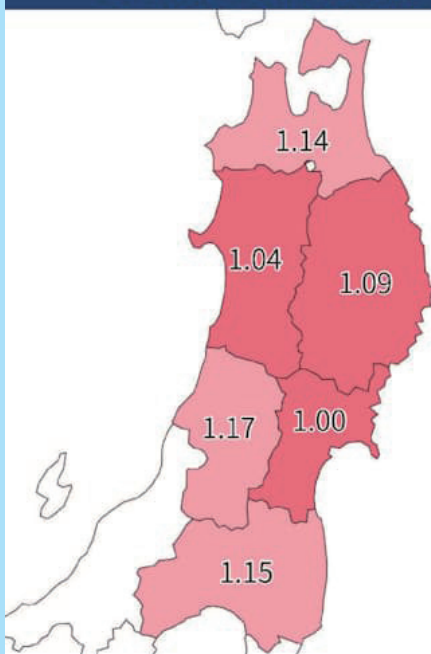
青森県データ
・・厚労省発表の昨年の人口動態統計より

が明白な流れである。何とかしなければならぬが、簡単に思いつくような方法はあるのだろうか？

他地方からの人口移動は無理である。国内の工場誘致のように、最も悲観的な未来図は、他県から誘致すれば良いという発想は、人口減少面では非常にむずかしい。いやほとんど無理であろう。しかし、人がどんないなくなる状況は見越すことは出来ない。

（次号につづく）

東北6県の合計特殊出生率



東北 6 県の出生率地図
・・日経新聞より

東北の合計特殊出生率と出生数		合計特殊出生率	出生数(人)	
	青森	1.10(1.14)	4737	(▼362)
	岩手	1.12(1.09)	4823	(▼73)
	宮城	1.00(1.00)	1万1079	(▼163)
	秋田	1.05(1.04)	3147	(▼135)
	山形	1.15(1.17)	4380	(▼319)
	福島	1.14(1.15)	7842	(▼374)
	全国	1.14(1.15)	67万1236	(▼1万4937)

25年の人口動態統計から。24年比。▼はマイナス

東北の合計特殊出生率と出生数・・朝日新聞より

東北スポーツニュース

東北のチーム・出身者や東北拠点の選手の活躍



福島での優勝パレード・・・スポニチより

福島のみなさん、おめでとう！ 若隆景一大けがからの大復活で やっと優勝をつかんだ

福島県民にとっては待ちに待った福島市出身の力士である小結・若隆景の優勝祝賀パレードが地元の福島市内で今月六日午後開催された。

兄の幕内・若元春、長男とともにオープンカーに乗り、同駅東口の駅前通りの一本道を三十分かけて走行。

前回、若隆景が優勝したのは四年前の春場所。場所後にはパレード開催を望む声もあったが、新型コロナウイルスの影響のため実施できずにいたので、四年越しの優勝パレードとなった。

＊

今場所の若隆景は十一勝三敗で迎えた千秋楽の本割で平幕・藤凌駕を下し、三敗で並んだ大関・霧島との

優勝決定戦を制した。固唾をのんで見守った福島県民にも大きな感動を与えたことだろうし、本割と優勝決定戦ともに手に汗握る取組みだったであろう。

＊

今場所はまた、二横綱大関が休場する混戦の中で、右肘の痛みを抱えながらも気迫と集中力で十五日間を戦い抜き、大関昇進への扉を再びこじ開けた。

二十三年の春場所、右膝の大ケガを負い、手術とリハビリで関脇から幕下まで番付を落として復帰したが、優勝までのブランク期間は長かった。二十五場所ぶりの優勝というのは史上三番目のブランクで、優勝後に幕下以下に落ちて再び優勝したのは照ノ富士以来二人

目だった。

「ケガをする前より強くなりたかった」という目標に掲げてきた若隆景だが、これで大関との起点をつくり「番付でケガする前を超えるには大関に上がるしかない。そこを目指してやっていきたい」と誓った。

幕下若隆元、次弟に若元春、若隆景の「大波三兄弟」として注目されたが、長兄の若隆元は今場所引退。その花道を優勝で飾った。

＊

東日本大震災では、大地震に大津波、そして福島第一原発の放射能漏れで大きく傷ついた福島県をさぞや奮起させたことであろう。この優勝を福島復興のエンジンにして欲しいものだ。



優勝賜盃授与・・・NHKNEWS より

打撃部門急上昇

打率 / 本塁打 / 打点 / OPS / 打数 / 安打 / 盗塁
.305 14 41 .979 246 75 6
(2026.6.14 18:48 現在)

大谷選手

防御率1.06 両リーグトップ
投打のMVP候補へ名乗り？

大谷選手が絶好調の波に乗って、投打にわたり次々に記録を打ち立てている。

打撃不振の時期があったなど信じられないほどだ。日本時間の六月十一日には、二刀流で、「二番DH兼投手」で先発出場した。

投げては、六回二死を六安打四失点とめずらしく打たれた。勝利投手の権利があったが、救援陣が打たれ勝利投手にはならなかった。

規定投球回数にはわずかに不足しているが防御率を1・06とした。これは規定数に届けば両リーグトップというだけでなく、大リーグの断トツトップであり、このままを維持すれば、大リーグの歴史上、どこを見てもあり得ない成績となる。

打撃面では、三回に本塁打性の当たりを攻守されたが、九回に十二号二ランを放った。

左の表を見れば、最近の急上昇が理解できるだろう。打率は三割越え、本塁打こそ昨年に比べれば少ないが、「OPS」は0.979と急上昇で、リーグ一位。

一時は打撃不振を叫ばれていたが、何のことはない。いきなりリーグ上位の打撃成績に上昇してきた。

今後の焦点は、やはり防御率であろうか？

世紀の大記録に挑んで欲しい。

もちろん、打撃部門の成績も大事で、投打にわたってのダブルMVPも狙って欲しい。



ベガルタ仙台優勝・・・Jリーグより

ベガルタ仙台 J2・J3百年構想リーグ優勝 8/1から1部昇格を目指す

今月六日、明治安田J2・J3百年構想リーグ・プレーオフラウンド第二戦―優勝（心位）決定戦で、カタール富山戦が行われた。

試合は苦しい展開となりPK戦までもつれこんだが、ベガルタ仙台の勝利で優勝が決定し、待ちに待った十七年ぶりのタイトルを獲得した。

試合後にはJリーグによる表彰式が行われ、Jリーグ百年構想リーグ杯が授与され、選手、スタッフをはじめスタジアム内が一体となり歓喜の声に包まれた。

この優勝により、八月からはJ1昇格を目指しての本番を迎えることになる。

ぜひ念願の昇格をつかみ取って欲しい。



キジ雄



ヤマシャクヤク



クロアゲハ



ベニザキヤマボウシ



ヒメシャガ



ウラシマソウ



社と鳥居と神木と

すでに、今年も半分近くが過ぎてしまった。ほんとに月日の流れるのは早いと感じる。それなのに、今年やろうと決めたことの五分の一も出来ていない。気が焦るばかりだ。

とはいえ、焦ったところで、何かが進展する訳でもないのだから、焦っても仕方ないとかきらめて、半歩ずつでも前進しようと思いつつことにする。

今回号で掲載した動物たちは焦ったりはしない。それは無駄な心の動きと分かっているからだろう。

あれこれ思い煩うことなく、淡々と日々の暮らしを生きていると教えられるような気がする。



日の出と雲海

シリーズ 遠野の自然

「遠野の芒種」

遠野1000景より



写真でお伝えする 東北の風景

「鹿の群れ」

写真撮影
尾崎匠

